

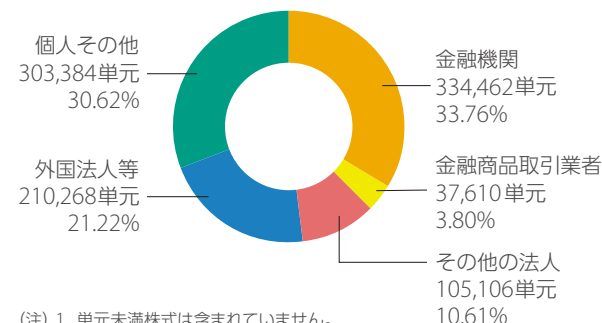
会社概要

商号 オーエスジー株式会社
OSG Corporation
本社 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
設立 1938年3月26日
資本金 130億44百万円
従業員 連結7,594名 単独1,928名
事業内容 切削工具・転造工具・測定工具・工作機械・
機械部品の製造販売、工具の輸入販売

株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式総数 99,182,517株
株主総数 7,776名

所有者別株式分布状況 (1単元の株式数100株)



(注) 1. 単元未満株式は含まれていません。
2. 自己株式は「個人その他」に含まれています。



〒442-8543 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
TEL:0533-82-1111 FAX:0533-82-1131
<https://www.osg.co.jp/>

大株主

株主名	所有株式数(千株)	所有株式数比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,990	14.58
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,966	7.26
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	4,265	4.44
オーエスジーエージェント会	3,429	3.57
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS	2,730	2.84
オーエスジー持株会	2,645	2.76
公益財団法人大澤科学技術振興財団	2,350	2.45
株式会社三井住友銀行	2,100	2.19
オーエスジー社員持株会	1,852	1.93
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,637	1.71

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 上記以外に自己株式 3,200千株があります。
3. 所有株式数比率は自己株式を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会 毎年2月開催
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年11月30日
中間配当 毎年5月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で
行っております。
公告方法 電子公告によります。ただし事故その他やむを得ない
事由により電子公告をすることができない場合は日
本経済新聞に掲載いたします。
https://www.osg.co.jp/about_us/ir/kessan/
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京・名古屋両取引所
証券コード 6136



shaping your dreams

OSG 通信

第111期 上半期のご報告

2022年12月1日 ~ 2023年5月31日

[OSGレポート ダイジェスト版]



オーエスジー株式会社

証券コード: 6136



PURPOSE

世界のモノづくり産業を地球規模で支え、
持続可能な社会の実現を目指します。

オーエスジーグループは切削工具の製造・販売を行う総合工具メーカーです。
オーエスジーを支えてくださっているステークホルダーの皆様と
豊かな事業環境のおかげで、グローバル企業として世界にチャレンジし続け
日本が世界に誇る"モノづくり"を支えてきました。
これからも企業の成長、ステークホルダーの皆様への貢献
そして社会の持続可能な発展の実現を目指し
世界中のモノづくりの現場に
最適な切削工具をお届けし続けることが
私たちオーエスジーの使命だと
考えています。



本冊子について

本冊子は、オーエスジーの統合報告書「OSGレポート2022」のダイジェスト版として制作されています。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指すオーエスジーの姿を分かりやすくまとめました。尚、P05「財務・非財務ハイライト」 P11「会社情報／株式情報」については2023年5月31日時点での最新情報を記載しております。

「OSGレポート2022」オリジナル版

オーエスジーのWebサイトでは、オリジナル版(原本)の冊子PDF(全ページ)をご覧いただけます。冊子をご希望の方は、当社Webサイトの投資家情報に関するお問い合わせフォームよりご請求下さい。

冊子PDF
https://www.osg.co.jp/about_us/ir/financial/file/annual_report_2022.pdf



Rikikawa
 代表取締役会長 兼 CEO
石川 則男

Osawa
 代表取締役社長 兼 COO
大沢 伸朗

2022年度はロシアによるウクライナ侵攻が契機となり、世界情勢に混乱が生じた一方で、コロナ禍により抑え込まれてきた社会経済活動の正常化が進み、2023年度に向けて明るい兆しが見えてまいりました。世界経済を取り巻く事業環境は、引き続き不確実性の高い状況が続くと予想されますが、オーエスジーグループの「地球会社」という企業理念のもとに築きあげた製造・販売・技術サポートのグローバルネットワークを生かした事業活動を続け、さらなる高みを目指してまいります。

近年、自動車関連産業では自動車のEV化に伴う業界再編が起きています。さまざまなリスクを伴う一方で、オーエスジーグループが注力している微細精密加工向け製品に新しいビジネスチャンスも生まれています。また、以前から注力してきた航空機産業関連製品についても、今後の需要回復が業績へプラスに働くことが予想されます。そのような環境の中で現在、中期経営計画

「Beyond the Limit 2024」を推進しています。1年目にあたる2022年度11月期は、売上高と経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が過去最高を記録しました。更なる成長が望める事業環境を生かし、企業体質の強化と全体最適による持続的な企業価値向上を図ります。

長期ビジョンにおいては、世界のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーを目指すとともに、カーボンニュートラル時代に向けて、「地球にやさしい会社」という基本コンセプトのもと、環境配慮型製品の開発も積極的に行っていく方針です。オーエスジーグループ一丸となり、ステークホルダーの皆様信頼いただけるブランドを確立し、持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。

今後ともステークホルダーの皆様のご支援とご理解をお願い申し上げます。

CONTENTS

- | | |
|-------------|-----------------|
| 02 ごあいさつ | 07 コーポレート・ガバナンス |
| 03 社長メッセージ | 08 財務・非財務ハイライト |
| 05 環境への取り組み | 09 OSG NEWS |
| 06 社会への取り組み | 11 会社情報／株式情報 |



長期ビジョン達成に向け 強みである「現場力」を生かし 今までの常識に囚われず 自分に限界を設けず 自らの殻を破ることに挑戦する

代表取締役社長 兼 COO おおさわ のぶあき
大沢 伸朗

Q 2022年度11月期中計1年目は売上高と経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が2018年11月期のピークを超えて、過去最高でした。ピーク更新を果たせた理由は何か。

前期の製品別売上高を見ると、タップとドリルが過去最高でした。自動車及び航空機関連産業における生産の伸び悩みが業績に影響したのは事実ですが、その一方で一般部品産業向けや機械部品産業向けに拡販を進めるAブランドの標準品売上高比率(2022年度11月期実績27%)が大きく伸び、自動車及び航空機関連産業の影響をカバーしました。Aブランドの標準品売上高比率は2024年度に30%、2027年度に40%へ高める戦略です。それに加え、グローバルな流通組織である「A-Club」を強化してきた成果も現れています。また、中計の最終年度2024年11月期に50%と見ていた自動車関連のお客様売上高比率は、前倒しで前期に50%を切りました。生産性向上を目的とするOSG4.0の実証工場として2020年5月に稼働を開始したNEO新城工場の増産効果なども利益に寄与しました。

Q 中期経営計画の中で微細精密加工業界向けの売上高を2030年11月期に全体売上高の30%(2022年度11月期実績16%)に高める目標ですが、この分野の収益性とオーエスジの強みを教えてください。

微細精密加工向けの小径工具は半導体製造装置部品やモビリティ、EVのモーター類、精密金型、また医療機器やロボット関連など中長期的に成長する分野を多く抱えています。ここを伸ばすにあたり、オーエスジグループの強みを挙げるとすれば、一つ目に加工領域で求められるタップ・ドリル・エンドミルの3製品領域を持つこ

と、そして二つ目に工具の母材がハイスと超硬の二本立てであることです。タップで世界トップシェア(約30%超)を持ち、お客様に総合提案ができるメーカーであるからこそ、微細精密部品のねじ切り加工をする場合は最優先でオーエスジ製品に引き合いがくる傾向がうかがえます。

また、微細精密部品は小型で大量生産の加工領域であるため、生産地はアジアや中国に集中しています。加工に使われる工作機械は自動旋盤が多いのですが、ここは日本の小型精密工作機械メーカー数社が圧倒的な世界シェアを握っています。中国の超大手お客様の中には、自動旋盤1,000~2,000台を工場に並べて同時加工している企業もあるため、切削工具メーカーは供給力も必要とされます。ここでは高速加工が必ずしも求められないため、超硬だけでなく、靱性が高いハイス素材の切削工具も需要があります。

また、微細精密加工向け小径工具は、他製品よりも原価に占める原材料費比率が低いことから収益性の向上も期待できます。

Q 中長期的な業界認識、そして機会とリスクについて聞かせてください。

中長期的に、切削工具業界は世界のモノづくり産業でより一層グローバルイズムが求められると予想しています。自動車関連産業で大きな再編が起きており、大手の自動車メーカーがEVへ開発を移行させる中、現在のEV比率は10%にも満たず、およそ90%は内燃機関車です。今後、内燃機関車の生産が人件費の安い第3国に展開すると予想され、工具メーカーにも同等のサービスが要求されています。発展途上国の生産ラインに内燃機関車の工場が移管される際

には、オーエスジグループが「地球会社」という企業理念のもと推し進めてきた積極的なグローバル展開が自動車関連産業再編の波をプラスに変換し、お客様から選ばれる工具メーカーになると確信しています。

自動車のEV化は、駆動源がバッテリーに変わる部分で内燃機関周りの部品加工が無くなるリスクがある反面、EV化に伴う新たな部品加工の機会が生まれます。加工の高精度化、そして部品の小径化・軽量化の傾向を踏まえると、オーエスジグループが強みを生かせる微細精密加工向け工具が新たなビジネスチャンスになり、この機会を取り込む準備はできています。また、コロナ禍で航空機関連産業向けが一時的に大きく落ち込みましたが、足元で底打ちの兆しが見えてきています。以前から航空機関連産業向けに注力していることもあり、今後の予測される需要回復局面においてオーエスジグループの業績にプラスに作用すると考えています。

Q 長期ビジョン「世界のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーへ」を達成するため、設定した8つの重要課題(マテリアリティ)で最もチャレンジングな課題はどれでしょうか。それらの取り組みについても聞かせてください。

長期ビジョンの冒頭に「カーボンニュートラル時代に向けて」とあるように、8つのマテリアリティの中で「気候変動への取り組み」はオーエスジグループのみならず、世界中の企業が果たすべき重要な課題です。現状でCO2排出量のScope3算出はできていませんが、Scope1と2は2030年度に2019年度比で30%削減し、2050年度にはカーボンニュートラルの達成を目指します。

具体的な取り組みとして、2023年2月からオーエスジグループ専用の太陽光発電所にて発電された電気がオフサイトPPAとして、国内4カ所の工場に20年間にわたって供給されます。太陽光発電由来のCO2フリー電気の活用によって、年間2,000トンのCO2排出量削減につながります。

また、環境配慮型工具などの取り組みも積極化します。具体的には、高効率・多機能転造タップとして、S-XPFの進化版であるAブランド製品「A-XPF」を製品化しました。タップ加工のトラブルで多いの

は、折損や欠け、ねじ精度の不良などですが、主なトラブル要因は加工時に発生する「切りくず」からきています。転造タップは、切りくずが発生しないため、お客様の設備運用が効率化され、使用電力の抑制が可能です。手作業で行うことが多い切りくず除去作業が削減されることで「作業環境の改善」が期待できるうえ、加工環境に合わせた被削材や切削条件への対応領域が広がりました。資源利用や循環の観点においても、工具の長寿命化や省資源化につながるコーティングと再研磨の比率を2027年度に15%へ高める考えです。

2023年1月には、ESG投資を行う世界中の機関投資家やサプライヤーとのエンゲージメント要請がある、CDP気候変動2022でマネジメントレベルの「B」スコアを初めて取得しました。「B」スコアは機械業界及びアジア地域平均の「C」スコアを上回るものです。長期的に、欧米のお客様は工具サプライヤーの環境経営も加味した総合評価に変わる可能性もあり、今後はさらに上の「A」スコアを目指します。

また、地域貢献のための事業として、障がい者への就業機会をつくるべく、特例子会社である「オーエスジアクティブ株式会社」をスタートさせました。特例子会社になることで、オーエスジグループ全体の障がい者雇用を創出し、安心して働くことができる職場環境を整備し、それぞれの特性に合わせて仕事をマッチングさせています。

最後に

今年オーエスジは創立85周年を迎えました。この先の10年後、20年後もオーエスジグループが成長し、「第一に選んでいただけるメーカーであり続ける」ことが、「今以上に輝いている会社へ」という思いの根底にあります。そのためには、ステークホルダーの皆様にとって、唯一無二の存在になることが必要です。ここにおける私の経営者としての責任は長期ビジョンに基づいた今後の道筋を社員に示し、しっかり導くことで、企業価値向上につなげることです。ステークホルダーの皆様におかれましては、永らくオーエスジグループの成長に伴走していただければ幸いです。今後も皆様の格別のご支援とご理解をお願い申し上げます。

E

環境への取り組み

オーエスジーグループは、地球環境の保全が人類共通の重要な課題であることを認識し、「環境基本理念」に基づいて、資源の効率的な利用や環境に配慮した製品づくり、環境に優しい製品・サービスの提供に積極的に取り組み、環境負荷低減と資源循環型社会の構築を目指します。

環境配慮した製品開発

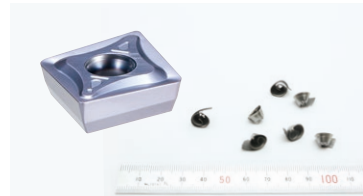
製品名 インデキサブルフラットドリル PDZ



開発品 加工能率と工具寿命をカバーしたインデキサブルフラットドリル[PDZ]には3つの大きな特長があります。

1 切りくず分断性に優れたインサート形状を採用

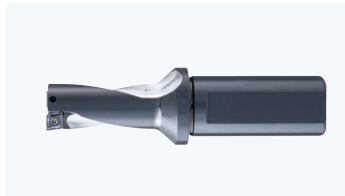
切れ刃に対して大きく盛り上がったマッスルブレーカ*を採用することで切りくずをカールさせて、優れた切りくず分断性を実現しました。



*マッスルブレーカ：オーエスジーでの呼称

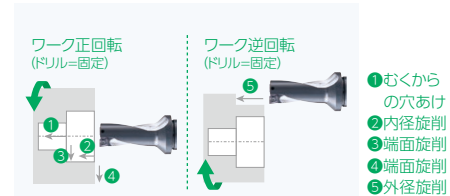
2 切りくず排出性に優れた溝仕様

溝表面を研磨することで、切りくずの流れをスムーズにして排出性の向上を実現しました。



3 インサート配列の最適化

インサートの配列方法を最適化することで、中心刃の刃先への加工負荷が低減しました。加えて旋削加工においても内径・端面加工が可能で、工程集約が可能な仕様です。



VOICE 【開発者の声】



デザインセンター 開発グループ インデキサブルツール開発チーム 菅沼 充

切削加工においては、高能率や高精度、長寿命といった要求だけではなく、SDGsへの取り組みの中で、廃棄物をどれだけ削減できるかなど、環境負荷に配慮したプロセスも求められるようになりました。

インデキサブル工具を採用し、複合加工による工程集約

を実現することで、従来加工から生産性を落とさずに加工できる可能性が見えてきました。

今後もESG経営推進の一環として、地球に優しい製品を開発することで社会に貢献していきます。

S

社会への取り組み

オーエスジーグループでは、持続可能な社会の発展に向け、株主の皆様をはじめお客様、お取引先、従業員、コミュニティなどのステークホルダーの皆様との健全な関係の維持・発展に努めています。社会を構成する一員として、ステークホルダーの皆様との相互理解の促進や、貢献活動を通じ、社会とのより良い調和を図っていきます。

女性活躍推進

オーエスジーでは、「ダイバーシティ&インクルージョン」の推進をテーマに社員が仕事と家庭を両立し、より活躍できる雇用環境整備を行うため、女性活躍推進法に基づく目標を右のように掲げています。一人ひとりの女性が安心して生き生きと働き続けることで能力を最大限に発揮しキャリアアップできることを目指しています。

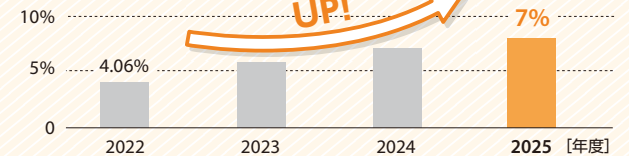
また、女性の健康・ハラスメントについて知識を深め、職場のコミュニケーションを円滑にすることを目的とし、全社員に対し、「女性の健康」「マタハラ・パタハラ」教育を実施しました。

中計においては、ESG経営を具現化させていくことを方針に掲げ、パイオニアとしての活躍を期待し、サステナビリティ推進メンバーに8名の女性を起用しました。

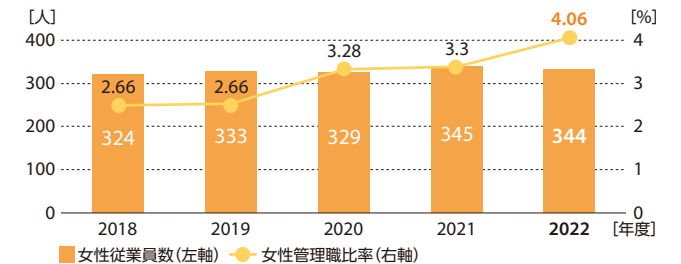
一人でも多くの女性リーダーが誕生し活躍できるように積極的な女性の採用、女性活躍に関する実態や意識の把握と開示、社内周知、教育を積極的に行ってまいります。

女性活躍推進法に基づく目標

2025年3月31日までに
目標：係長級に占める女性割合を7%とする
(2022年11月30日現在4.06%)



女性従業員・女性管理職



VOICE



人事総務部 人事・労務グループ 労務チーム/経営企画室 サステナビリティ推進担当 源 裕子

サステナビリティ推進の業務は、想像以上に会社を客観的な立場で見、広い分野の業務を理解する必要があると感じています。今までと違った視点でそれぞれの部門の役割を考えることができ、とても刺激になっています。私自身は2度の育児休業と復職を経て、今も育児をしながら従業

員の皆さんをサポートする労務チームのリーダーを担当しています。仕事と家庭を両立している経験を生かし、さまざまな部署で活躍する幅広い年代の女性メンバーとも意見交換をしながら、オーエスジーならではの女性の活躍の場を広げる活動をしたいです。

G

コーポレート・ガバナンス

オーエスジーは、「地球会社」という企業理念のもと、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると認識しています。コーポレート・ガバナンスを充実させる仕組みとして、企業倫理を高めるための具体的な行動指針である「OSG Philosophy」及び「オーエスジー企業倫理綱領」を、オーエスジーを含む全グループ会社の取締役、執行役員及び従業員に示し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

取締役会実効性評価

オーエスジーは、取締役会の機能向上を図るため、2022年度より取締役会の実効性に関する分析及び評価を実施しています。

2022年度の実効性評価は、客観性・透明性を担保するため、外

部機関のサポートを受け、2022年6月に実施し、2022年8月の臨時取締役会において、分析・議論・評価を行いました。以下のとおり、評価結果の概要を公表します。

■実施内容

対象者	全取締役会メンバー 監査等委員でない取締役2名 監査等委員である取締役5名(うち社外4名) 合計7名
評価方法	無記名方式によるアンケート
実施期間	アンケート回答期間(2022年6月10日～6月24日)
質問概要	<ul style="list-style-type: none"> ●取締役会の構成 ●取締役会の運営 ●取締役会の議論 ●取締役会のモニタリング機能 ●社外取締役(監査等委員含む)のパフォーマンス ●取締役(監査等委員含む)に対する支援体制 ●トレーニング ●株主(投資家)との対話 ●自身の取り組み ●指名・報酬委員会 ●総括
評価方法	アンケート結果は外部機関にて取り纏めを実施 取締役会において分析・議論・評価

■評価結果

アンケートの回答からは、取締役会の求められる運営とその対応について肯定的な評価を得ることができ、取締役会全体の実効性については確保されていると認識しています。

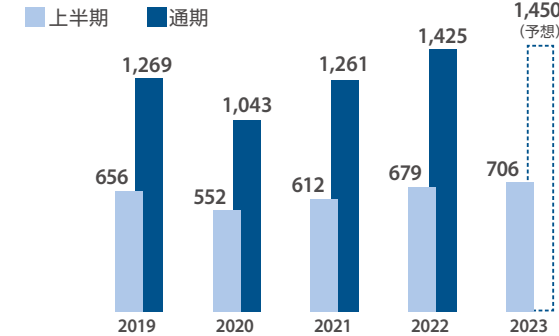
一方で、支援体制の充実化、内部監査部門との連携、株主等投資家との対話内容の共有、社外取締役間の意見交換などについてさらに踏み込んだ意見が出され、取締役会の機能の更なる向上、議論の活性化に向けた課題についても共有しました。

■実効性向上に向けた取り組み

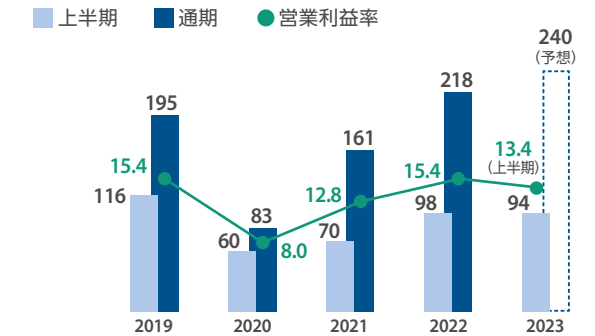
今後、オーエスジーの取締役会では本実効性評価を踏まえ、課題について十分な検討を行ったうえで迅速に対応し、取締役会の機能を高める取り組みを継続的に進めてまいります。

財務・非財務ハイライト

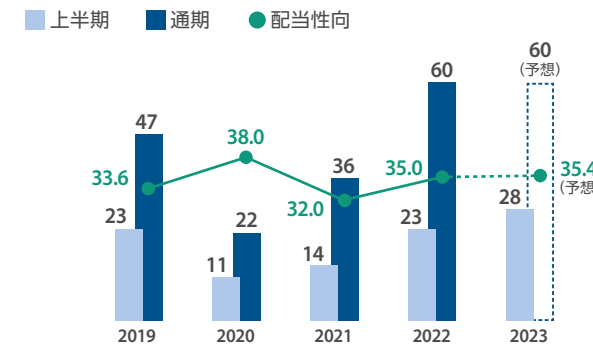
売上高(億円)



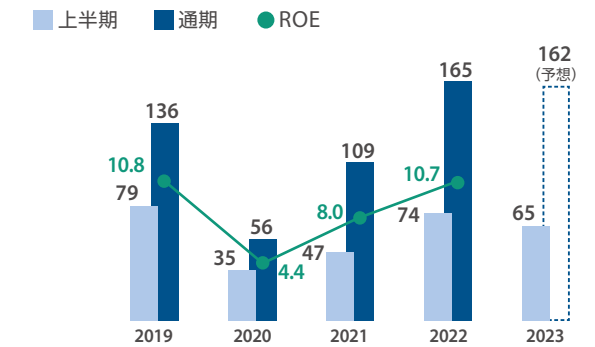
営業利益(億円)／営業利益率(%)



配当金(円)／配当性向(%)

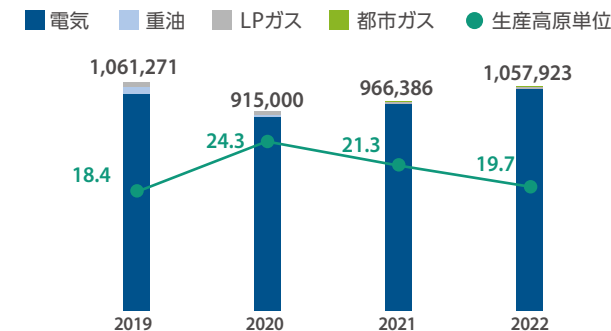


当期純利益(億円)／ROE(%)



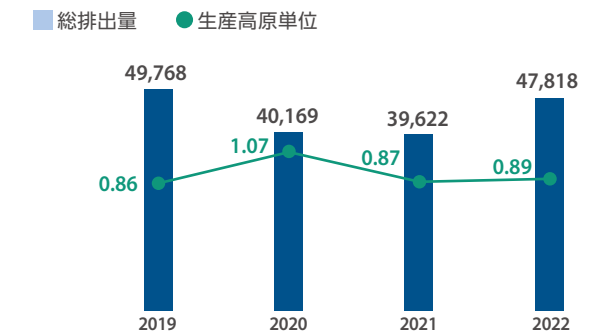
エネルギー使用量(GJ)

エネルギー使用量の生産高原単位(GJ/百万円)



CO₂排出量(t)

CO₂排出量の生産高原単位(t/百万円)



▶ グリーンボンド「OSG Beyond the Limit Bond」発行

オーエスジーは、切削工具メーカーで世界初となるグリーンボンドの発行を予定しています。グリーンボンドとは、環境問題等の解決を目的としたグリーンプロジェクトに必要な資金を調達するために発行する債券です。

本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則2021、環境省のグリーンボンドガイドライン(2022年版)に基づき策定しています。適合性に対する外部評価(セカンドオピニオン)を、株式会社日本格付研究所(JCR)から取得しており、オーエスジーは「JCRグリーンボンド・フレームワーク評価」の最上位評価である「Green 1(F)」の評価を取得

しています。

本グリーンボンド発行により調達する予定の資金はオーエスジーのマテリアリティの一つである「気候変動への取り組み」として、工場改修時のグリーンビルディング等の「省エネルギー区分」及び、省電力に資する環境配慮型製品の研究開発・製造等の「環境配慮型の製品区分」に該当するプロジェクトに関する設備投資資金・研究開発資金に充てる予定です。

本グリーンボンドの発行により、事業の成長とともに持続可能な社会の実現に向けた取り組みをより一層推進してまいります。

▶ 営農型オフサイトPPAサービスの実施

2022年12月、アグリガスコム株式会社、及び中部電力ミライズ株式会社とともに営農型オフサイトPPAサービスの実施に向けた協定を締結しました。本協定に基づき、中部電力ミライズ株式会社は、アグリガスコム株式会社が愛知県豊川市内の10カ所で設置を進める太陽光発電所から電気を調達します。この発電所はオーエスジー専用の太陽光発電所であり、発電された電気は2023年2月26日よりオフサイトPPAサービスとして、オーエスジーの4つの工場に20年間にわたり供給されます。この取り組みにより、年間2,000トンのCO₂排出量を削減することが可能です。また、アグリガスコム株式会社が設置する太陽光発電所のうち6カ所は、太陽光パネルの下で農業生産を行う「営農型太陽光発電所」と呼ばれるもので、この「営農型オフサイトPPAサービス」は

中部エリアで初めての事例です。

今後も再生可能エネルギー由来の電気の活用を進めることで、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。



▶ 健康経営優良法人2023 ホワイト500に認定

2023年3月、経済産業省と日本健康会議が選定する健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人(大規模法人部門)2023 ホワイト500」に認定されました。健康経営優良法人認定制度とは健康経営に積極的に取り組む企業を顕彰する制度です。健康経営優良法人(大規模法人部門)の認定企業の中でも、特に優れた健康経営を実践している上位500社が「ホワイト500」として認定されます。

1996年に「健康会社」を宣言し、健康に配慮した食事の提供、従業員の健康管理やストレスチェックをはじめ、社内の保健師とともに運動支援・メンタルヘルスクアなどの健康施策を実施する

など、従業員の健康推進のためにさまざまな取り組みを推進してまいりました。このような継続的な活動が評価され、今回の認定につながりました。

オーエスジーのサステナビリティサイトに「安全健康経営白書」を掲載しておりますので、詳しい活動内容についてはそちらからご覧いただけます。今後も健康経営を推進し、従業員のウェルビーイングを追求してまいります。



▶ 特例子会社オーエスジアクティブ(株)の取り組み

オーエスジーは、切削工具業界では初となる特例子会社オーエスジアクティブ株式会社を設立しました。過去より障がい者の法定雇用率は達成していましたが、特例子会社を設立したことにより障がいがある従業員一人ひとりの状況に合わせた勤務時間の設定などを行い、より働きやすい環境を整えることができました。状況に応じて一定の配慮をしながら、職場での周囲の理解と助け合いによって、チームの一員として働くことができる環境づくりを推進しています。今後も社会的責任として法定雇用率の達成・維持を前提とし、積極的に地域・社会への貢献を続けてまいります。



障がい者雇用率推移

